

インターンシップ（学外実習）に関する報告書

令和2年度

沼津工業高等専門学校

初版 R03年1月23日

学生受け入れを決めてくださった後で辞退するというご迷惑をおかけした企業様へのお詫び

企業様には、学生のインターンシップ参加希望に対しまして、お受け入れを決めてくださりまして感謝申し上げます。

しかしながらコロナウイルスの感染状況は想定を超え、残念ながらいくつかの企業様に対しましてはせっかくお受け入れを決定していただいたインターンシップを辞退することとなり誠に申し訳ございませんでした。

本校からの辞退理由は次の二種類のいずれかでした。①学生や保護者が、家族の状況や社会の感染状況を見て辞退を申し出た場合（これについては、もしそういったことに悩んでいるなら申し出なさいと学校から問いかけもしました）、②感染状況を鑑み学校で定めた条件に達したもの（静岡県が毎週発表する新型コロナウイルス警戒レベルを根拠にするものであり、県境をまたぐ不要不急の移動を「回避」とされた地区でのインターンシップ）でした。

本校からの辞退の条件や可能性を前もってお伝えできれば混乱はもう少し和らげられたかもしれませんが、上記①も②も、状況を見てそういった問いかけや判断が必要と考えて決めるなど対応が後手に回ってしまいました。

こうした状況のもとでこちらから申し出るのは恐縮ではありますが、私どもはこれを教訓に、より運営の改善をする所存です。

もしよろしかったならば、新年度次年度以降につきましてもまた本校インターンシップにご理解ご協力を賜ることができましたら幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

目次

| | |
|---|----|
| 1. インターンシップの概要 | 4 |
| 2. 今年度の特別な対応 | 4 |
| 3. インターンシップ事前研修 | 7 |
| 4. インターンシップ受入機関からのアンケート集計結果 | 8 |
| 5. 記述式質問 7, 8, 9 のまとめ (企業様から寄せられる問い合わせへの, 学校の回答) | 10 |
| 6. インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果 | 12 |
| 7. 学生からの意見・感想 | 17 |
| 8. 3年生対象のインターンシップ説明会 | 25 |
| 9. インターンシップの総括 | 25 |
| 付録 1. 「インターンシップ企業説明会について | 27 |
| 付録 2. 令和2年度インターンシップ日程 (2月以降については予定) | 27 |
| 付録 3. 学外実習生学生心得 | 28 |

1. インターンシップの概要

平成2年度はコロナウイルスの影響を受けて、学校活動の多くが影響を受けたが、インターンシップも多大な影響を受けることになった。そこでこの章は、1.1節で概要を記し、1.2節で今年度の特別な対応を示す。

文科省によると、我が国のインターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」だとされている。そのうちのある条件を満たしたものを、沼津高専では「学外実習」という自由選択科目として単位化している。この文書は学外の方も読む可能性があることからインターンシップという用語を用いる。

図1に、平成27年度（表中 '15）から令和2年度（表中 '20）にわたる、学生係に届けられた学校公募の企業数と、沼津高専本科からのインターンシップ参加数を示す。M, E, D, S, Cはそれぞれ、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科の4年生である。一度の実施は、受け入れ機関によって1週間だったり2週間だったりする。平成28年度の「その他」は5年生による実施である。

令和元年度までの3年間はインターンシップに参加する学生が増えていた。令和2年度はコロナの影響で募集数が減り、受け入れ確定数も減った。例年であれば受け入れ確定数は実施数と同じであるが、コロナウイルスの状況によって受け入れ確定後に中止や辞退が生じたため、実施数は更に減った。

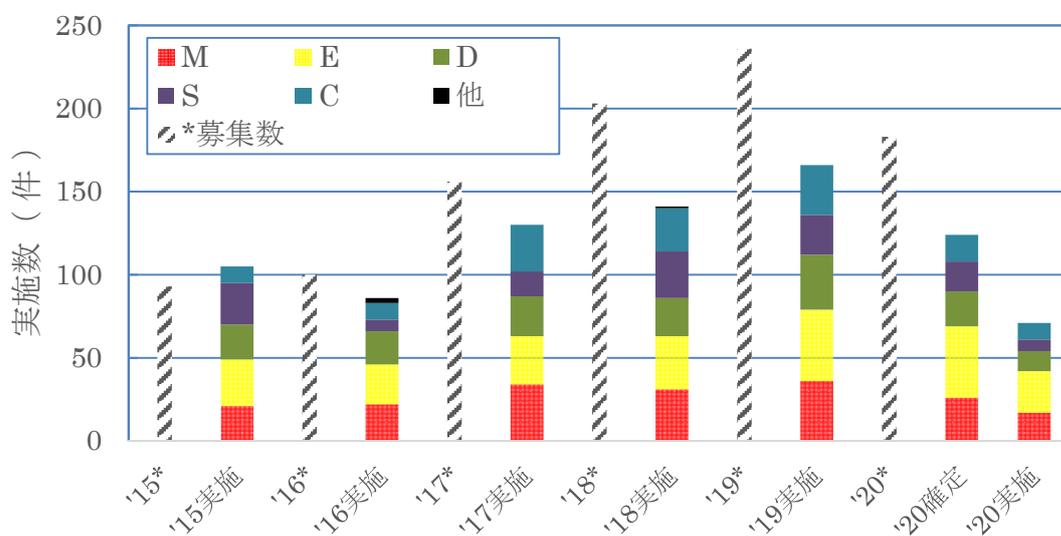


図1 年度別実施数と募集数

2. 今年度の特別な対応

昨年度末からコロナウイルスは市民生活や学校に影響を与えていた。2月には横浜港に寄港したクルーズ船内で新型コロナウイルスが確認されたとのニュースが流れ、卒業式は規模を縮小しての実施となった。

今年度が始まって、すぐに授業はできず、まずは遠隔授業から始まり、その後分割登校

表 1 インターンシップ実施に向けた学内状況

| 日付 | 学内 |
|------|--|
| 3月 | 卒業式は規模を縮小して実施した。 |
| 3/24 | 文科省から大学等の授業開始等についての通知があった。 https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf その内容には、地域の感染状況別にバランスをとって必要な対応を行っていく必要があるとも記されている。 |
| 4/7 | 学生は登校禁止となり、その方針が学生にも伝えられた。 |
| 4/15 | 教員会議にて、今年度インターンシップは「今は中止としておくが状況を見て実施を検討する」とする学校方針が学内に示された。 |
| 4/28 | コロナの影響を受け、夏休みは 8/8～8/23 に変更された（当初は 7/18～9/6 予定） |
| 5/7 | 5/19 から遠隔授業を開始することを決定した。 |
| 5/15 | 静岡県の新型コロナウイルス警戒レベルのページが立ち上がった。 http://www.pref.shizuoka.jp/kinkyu/covid-19-keikailevel.html この情報は、沼津高専の行動の指針としても使われることになった。 |
| 5/26 | 4 年生学級担任に今年度のインターンシップを実施するとの方針が伝えられた。ただし、今後の新型コロナウイルス感染症に関する社会情勢を鑑みて、実施を中止する場合があるとしている。 |
| 6/19 | 6/29 から「クラスの半分が登校」という分割登校によって一部の科目の対面授業が開始するとの連絡が、学生と保護者に伝えられた。 その中には「登校は、決して皆様に強制するものではありません。新型コロナウイルス感染症が心身両面に及ぼす影響は個々人で異なることを踏まえ、学生の及び保護者の皆様のお考えをお聞きして、柔軟に対応したいと考えています」との内容も含まれた。 |
| 7/15 | 参加学生への事前研修会 |
| この頃 | 全国的にみるとコロナウイルス感染者数は 4 月中旬に最大値になって 5 月下旬にはいったん収まったものが、また少しずつ増えて、7 月中旬には、4 月中旬の最大値を超えてなお上昇していた。 学生によってはその状況を不安視する者も見られた。 |
| 7/29 | 学校の方針「(登校=インターンシップ参加=は、) 決して皆様に強制するものではありません。新型コロナウイルス感染症が心身両面に及ぼす影響は個々人で異なることを踏まえ、・・・」を学生に再確認した。 |

の体制に移行した。そんな中で、5 月末に今年度のインターンシップを実施するという方針が示された。表 1 に、時間に沿って、学内の状況を記す。

初めての状況であり難しいかじ取りであったが、インターンシップという「他では得難い

教育」のために、どうしても安全に実施できるか考慮しながら方針を決めていった。そうして実際の実施数が決まっていった。

今年度のコロナウイルスの影響の影響を確認するため、R1年度とR2年度の状況を表2にまとめる。まずは平成元年度の状況を確認する。

- ・この年度は、第4学年約200名に対して244社から募集要項が寄せられた。うち県内企業は全体の31%であった。
- ・受入れを決めた企業数は109社であり、うち県内企業は全体の40%であった。なお、わずかであるが、募集要項は寄せられなくても受け入れに繋がったケースもある。
- ・参加した学生数は164名であった。受け入れは1社あたり学生1名とは限らず、最大では5名というケースもあった。県内企業への参加は全体の48%であった。

全国区の会社は募集要項は送られるものの、参加できるかどうかは書類審査によることが多い。一方、県内企業には「沼津高専枠」を設ける企業が見られることが学生数を多くしているとみられる。

表2 この2年の実施状況（コロナウイルスの影響検討のため）

| 年度 | 説明 | | 静岡県内企業 | 県外企業 |
|-------|----------------------|-----|--------|----------------|
| R1 | 募集要項を寄せた企業数 | | 76社 | 168社 |
| | 受入れを決めた企業数 | | 44社 | 65社 |
| | 参加を決めた学生数（全4年生は223名） | | 78名 | 86名 |
| R2 | 募集要項を寄せた企業数 | | 48社 | 129社 |
| | 受入れを決めた企業数 | | 28社 | 52社 うち遠隔5~7 |
| | 参加を決めた学生数（全4年生は210名） | | 51名 | 76名 うち遠隔9名 |
| | 非実施の学生 | 辞退 | 3名 | 13名 |
| | | 中止 | 11名 | 28名 |
| 実施の学生 | 現地で実施（含「一部Web」） | 37名 | 19名 | |
| | 完全にWebで実施 | 0名 | 16名 | |

続いて平成2年度の状況を確認する。

- ・この年度は、第4学年210名に対して177社から募集要項が寄せられた。これは昨年度の73%である。なお、177社のうち県内企業は27%であった。県内企業が減った理由は、県内に多い食品や医薬品の会社が募集を控えたからだと思われる。
- ・受入れを決めた企業数は昨年度の73%にあたる80社であり、うち県内企業は35%であった。なお、実施がWeb方式の企業が7社（そのうちの5社は当初からWebを謳っていた）あったことが今年の特徴である。それらは今年度のコロナ禍の下で「確実に実施されるもの」として学生から支持を受けたようである。
- ・実施を約束した学生数は昨年度の78%にあたる127名であった。このうち県内企業は40%

であった。

- ・実施を約束したのちに辞退を決めた学生は 16 名であった。うち県内企業への参加を決めていた学生は 19%であった。

表紙にも記した通り、辞退理由は、①学生や保護者が、家族の状況や社会の感染状況を見て辞退を申し出た場合、②感染状況を鑑み学校で定めた条件に達したもの（静岡県が毎週発表する新型コロナウイルス警戒レベルを根拠にするものであり、県境をまたぐ不要不急の移動を「回避」とされた地区でのインターンシップ）であったが、インターンシップの期間中は東京・愛知・大阪・福岡・沖縄が回避とされていたことから、②による辞退が多く、その結果県外のものへの辞退が増えた。なお、「実施場所は神奈川県（回避でない地区）だがホテルが東京都（回避地区）に設定されたもの」は、残念ながら回避と判断した。

企業の中止の理由は企業ごとの判断によるが、静岡県の判断によって「回避」とされる地区のものはおおむね中止になったため、中止は主に県外のものだった。

以上の結果として、県内での実施が計画された 51 名のうちで実際に実施した者は 37 名（つまり 73%）であり、県内での実施が計画された 76 名のうちで実際に実施した者は 35 名（つまり 46%）であった。なお 35 名のうちで Web での実施は 16 名であった。

特に早くからインターンシップを始める企業においては、直前になって辞退の連絡をすることになるケースがあった。もともと今年度にインターンシップを実施するということが企業が企業様においてどれだけ心血を注いで作り上げたものだったか考えると、そこにかけたご迷惑は多大なものだったと認識される。この報告書に、その状況を踏まえた反省を記した。この経験は本校の今後の糧にしたいと考える。

3. インターンシップ事前研修

インターンシップへ参加が決定した学生および、参加を希望する全学生に対して、下記要領で夏休み前にインターンシップ事前研修会を行っている：

| |
|--|
| 1) 日時：2020年7月15日（水）13：05～14：25 |
| 2) 実施方法：Teams |
| 3) 内容：(Teams という遠隔授業システムを利用) 13：20 研修会に参加するにあたって（インターンシップ担当教員） 13：25 諸注意（主事） 13：30 事前研修 14：05 質疑・応答 14：25 終了、個別対応 |
| 4) 配布物：なし |
| 上記3)の内容を以下にまとめる。 <研修会に参加するにあたって> インターンシップは、進路を決める重要なイベントの一つである。重要な話がたくさんあ |

るので、聞き漏らしの無いように、集中して話を聞くこと。

<諸注意>

今日の参加者は、そのほとんどが就職希望者である。将来のために会社での仕事を体験するのは、ミスマッチを防ぐためにも大切なこと。インターンシップへは、沼津高専の代表として参加することを忘れない。挨拶や服装、態度や行動に注意し、学生らしく振る舞う。勝手な行動は慎む。来年度の就職につなげて欲しい。

<ガイダンス>

- ① 知的財産を守る
- ② 企業アンケートの紹介
- ③ インターンシップ実施までにやるべき事
- ④ 参加時の持ち物
- ⑤ インターンシップ参加までの受入機関との連絡における注意事項
- ⑥ インターンシップ参加時の注意事項
- ⑦ ビジネスマナー、挨拶の仕方
- ⑧ その他の心構え

4. インターンシップ受入機関からのアンケート集計結果

例年、本校インターンシップを受け入れて下さった機関に対し、下記のアンケートをお願いしている。今年度の回答は31社(36件)から得られた。それを工場等での現場で実施(29件)とリモートによる遠隔実施(7件)に分けて分析する。サンプル数は例年よりも少なく、特に遠隔については非常に少ない。分析結果については、サンプル数の少なさを承知の上で受けとめなければならない。

沼津高専のインターンシップに関するアンケート回答用紙

貴社名 _____ 所属部署名 _____

記入者名 _____ E-mail _____

質問1. 記入者の方は、インターンシップにはどのように関わりましたか?

→1.人事課系(主に手続きや企画を担当)、2.現場系(主に学生の直接指導を担当)

(5択で回答)

質問2. 本校から参加した学生は、実習に積極的でしたか?(複数名参加の場合は平均値)

→1.非常に積極的、2.積極的、3.普通、4.消極的、5.非常に消極的

質問3. 本校から参加した学生の能力は、高いと感じましたか?

→1.非常に高い、2.高い、3.普通、4.低い、5.非常に低い

質問4. もし来年度も、本校の学生が御社を希望した場合、受け入れて頂けますか?

→1.ぜひに、2.希望があれば、3.検討したい、4.難しい、5.遠慮したい

質問5. 学校側の、インターンシップに関する対応はどう感じますか?

→1.非常に丁寧、2.満足、3.普通、4.不十分、5.改善を希望

質問6. インターンシップの企業としてのメリットは感じますか?

→1.大いにある、2.多少ある、3.学生による、4.あまりない、5.全くない

(以下文章形式)

質問7. 今後、インターンシップに参加する学生に伝えたい事があれば、お書き下さい。

質問8. インターンシップ実施に関して、ご要望・ご質問がございましたらお書き下さい。

質問9. その他何かございましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただきありがとうございます。

お手数ですが、E-mail または、FAX にてご返送いただけると幸いです。

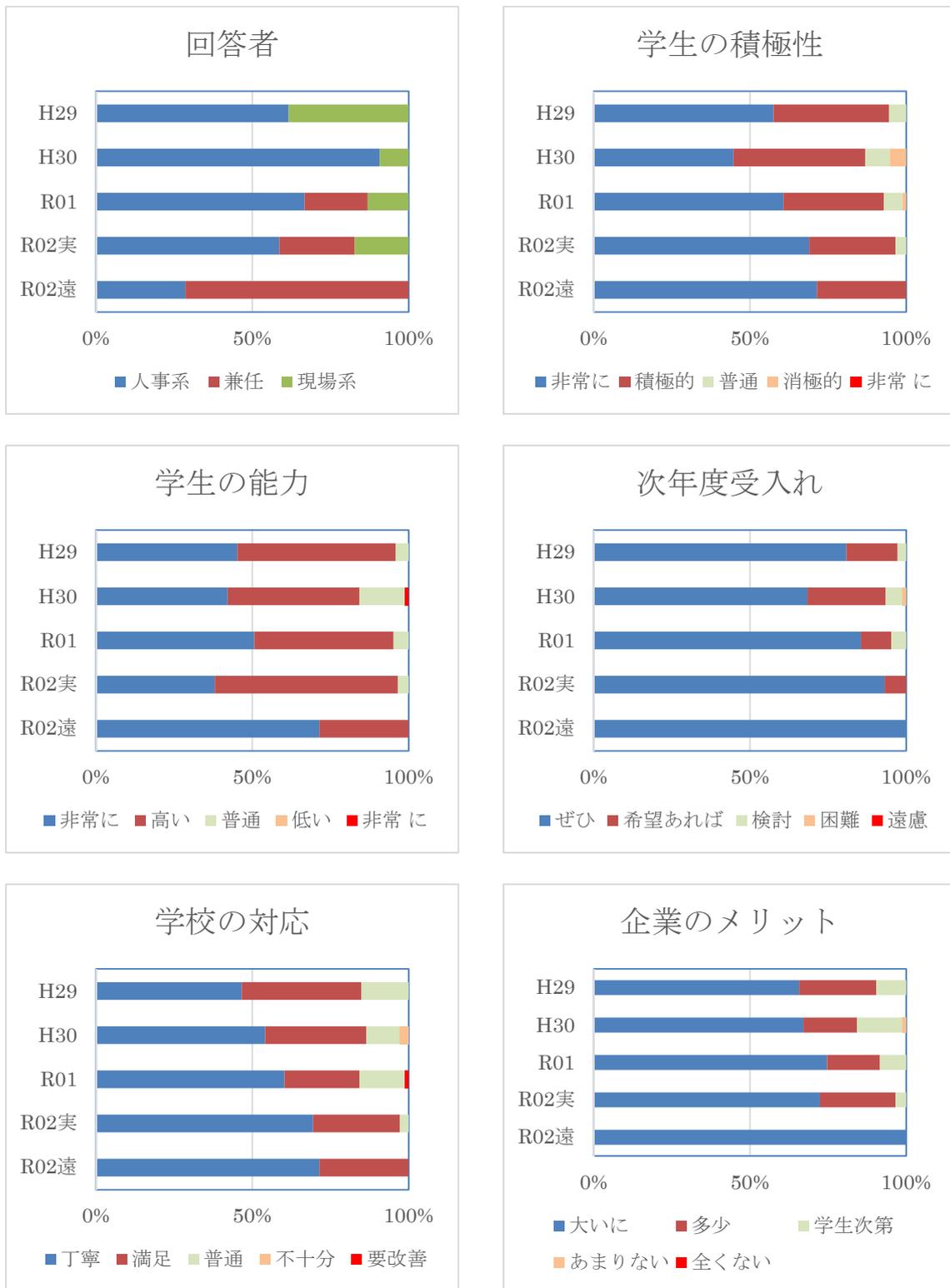


図3 企業から回答を頂いた、インターンシップのアンケート

これらのデータより分ることを以下に述べる。

- (1) 全般的には例年以上に実施企業様から好意的に受け入れられていると思われる。
そうだった理由としては、コロナという厳しい環境の中でも実施するということが、参加学生の積極性を引き、よりよい結果になったのではないかと考える。
- (2) 上記傾向は遠隔開催についてより当てはまると感じられる。

5. 記述式質問 7, 8, 9 のまとめ

企業に回答を頂いたアンケートのうちの3項目は、記述式である。それらのうちで、同様なものについては複数回の記述を避け、似た項目ごとに分けて表にした。なお、質問7については、遠隔実施かどうかという視点で見たとき内容に差が感じられなかったため、遠隔かどうかという条件で分けるようなことはしなかった。

なお、質問7は「インターンシップに参加する学生に伝えたいこと」、質問8は「インターンシップ実施に関して、要望・質問は?」、質問9は「その他なにかありましたら」であった。質問9の内容は基本的に学校に向けたものが多かったため、基本的には質問8に併せた。また、学校からの回答が必要なものは独立してまとめた。

企業様から寄せられる問い合わせへの学校の回答

R1年度からは、質問と回答は別の資料にまとめている。資料のタイトルは、「本科インターンシップ(学外実習)に関して企業からよく尋ねられる質問への回答」である。今年度に新たにクローズアップされた質問を新たに加えて、従来からの質問と併せて回答している。

質問7. インターンシップに参加する学生に伝えたいことは?

| | |
|------|--|
| 姿勢 | 意欲をもって積極的に取り組んで欲しい。 本年は非常に積極的な生徒で大変良かったと思いました。インターン実施部門では忙しい時間を割いて対応しておりますので積極的に質問やコミュニケーションを意識して参加頂けると良いと思いました。 職場には、年齢・国籍など様々な人が働いていますので、積極的にコミュニケーションを取っていただくとよい経験になります。 企業としても教育負担はあることを承知してください。 実際を見ることで学業継続のモチベーションアップにも繋がると思いますので是非インターンシップに参加をお願いします。 当社に限らず、失敗を恐れずぜひ実習の機会を活かしていただきたいと思ます。 |
| 学習項目 | 事前に目的意識を高く持ち、当社の訓練で何を不得たいのか、何を経験したいのかを明確にしておいていただくと、得られるものが大きくなると思ます。(同様な意見が6件) 当社のインターンシップは、学生さんの要望に沿って訓練内容を調整しながら進めていきます。(会社によっては、「工場機械の制御プログラムとして使用する「ラダー言語」をはじめとする専門性の高い内容から、お客様のご要望に応えるヒアリングや課題解決能力を体感できる内容まで、幅広い業務内容を体験できるインターンシップを用意しております。」と明確に記すケースもあり)(2社) |

| | |
|-------|--|
| | <p>現場にてこうしたことを学んだらどうでしょうか： 「学校での学習内容が社会（会社）でどのように使われて応用されるか」 （2社） 「C 関連でないプログラミング」 「実際を見て『世の中にはこうした仕事もある！』と体験すること」 「ふだん馴染みのない業界のこと（当社の事（例：総合エンジニアリング、IT 業界、システムエンジニア、組込み開発））を学んだらどうでしょう。弊社は業界や会社説明を詳しく行いますのでご安心ください」（3社） 「現場にいななければわからない、会社の雰囲気を知ってきたらどうでしょう。いいことだけでなくそこで苦勞することは何なのかも知っていただきたい。」 「不動産管理業界」 中小含めていろいろな会社を見てください。 システムエンジニア職がどのようなことをやっているか実際に体験できる内容になっています。学生同士でのワークで完結せず、顧客先や上司といった対外的な部分も経験できます。こういった内容に興味がある方はぜひご参加ください。 業務で重要な「グループで作業分担しながらひとつのものを創り上げる」を学びませんか。</p> |
| 将来 | <p>働くうえで、やりがいがとても大事だと思いますので、体験していただいた仕事がどのように世のため人のためになっているかをできる限り分かりやすく（説明）できればと思っています。 非常に熱心に実習に取り組んでくれました。また実習前の事務手続きに迅速に対応くださり、とても助かりました。能力も高く、また人柄も穏やかな方なので就職先もすぐに決まるかと思っています。弊社を候補の1つとして選んでいただければ幸いです。</p> |
| 選定と受入 | <p>応募詳細等は、弊社マイページよりご案内させていただきます。 インターンシップは企業を知るいい機会なので、様々な企業のインターンシップへ是非積極的に参加していただきたいと思います。 企業の社内の雰囲気、高専卒の先輩社員の様子などをじかに肌で感じるには、リアル開催の実習体験形のインターンシップが最も適していると思います。会社説明会、オンラインでのインターンシップ、ワークショップ形式等ではなかなかわかりにくい面があると思いますので、是非、実習体験型のインターンシップへの御参加をお勧めします。 システムエンジニアに興味がある方、ぜひご参加お待ちしております。</p> |
| その他 | <p>今のままで特にお願いする事はありません。他大学の学生（3年生）との合同の就業体験ですが、①会社の下調べ、②取り組み姿勢、③理解度・応用力、どれをとっても素晴らしい学生さんに参加して頂き、感謝しています。 本科からインターンシップに参加する場合、これから習うことや卒業前には習わないことがとても多いと思われます。習ったこと全てを使用するわけではありませんが、専門科目の基礎や数学に関しては切り離せない存在です。インターンシップ前後ともに学業への注力を怠らないようにすることを期待しています。弊社が担う仕事（業務）と一緒に経験していただき社会を学んで欲しいと考えています。 インターンシップへ参加される時期に合わせて自己分析や就職活動（どんな技術者になるのか）の軸についても改めて考え整理する時間をお持ちいただくことをおすすめします。 参加する企業の情報や、仕事内容について事前に調べることで、インターン期間中に学んだことの復習をすると、より深く学び気付きが得られると思います。また、インターン終了後にも同様のことをすると、学校での学びがより豊かになると思いますので、ぜひ実践してみてください。今回ご参加された学生の皆さまは、積極的に課題に取り組めていましたので、今後ご参加いただく学生にも是非積極的に頑張ってください。</p> |

質問 8. インターンシップ実施に関して要望・質問は？(含 質問 9. その他なにかありましたら。)

| | | |
|-----|--|---|
| | 特に回答不要と思われる事項 | |
| 満足? | 特になし x5 | |
| 歓迎 | 終始、学生の方々からも先生方・事務局員様からも丁寧なご対応をいただきありがとうございました。 | |
| その他 | ご質問 | 回答 |
| | ○一点ご質問がございます。学生の方から、「インターンシップの資料を作成する」と伺いました。作成された資料は、どのように活用されるのでしょうか？ ※学生の方からは、「社外秘の情報がないか」と確認の依頼をいただきご返答をさせていただきましたので、弊社資料自体はご自由に使用していただいて問題ございませんが、課題として提出し先生方をご確認されるのか、後輩の方々などにも引き継がれていくのかなど少し気になりました。 | FAQ に回答を記しました。 |
| | ○今後は、感染症対策を鑑みて、オンラインでのインターンシップ開催も多くなってくると思いますが、オンラインでの実施で、学生の方がとてもためになった事例など御座いましたら、ご教示いただくと助かります。今後の参考にさせていただきますたく思います。 | この文書内で分析しております。 |
| | ○今回は研修用のパソコンを当方で準備しましたが使い難い様子でしたので途中から学生が持参したパソコン（個人持ち）を使って頂きました。結果的にはスムーズに研修を進める事が出来ました。今後は研修の持ち物として「パソコン（Wi-Fi 接続可）」を提示しても差し支えないでしょうか。 | 「条件」とせず「可能」としていただければ幸いです。PCを持っている学生は 8～9 割程度のようなようです。 |
| | ○今回はオンラインによる参加形態でしたが、問題なくご参加いただけました。今後もこのような形式の可能性が有ることをご承知いただけますと幸いです。 | この文書内で分析しております。 |

※ 回答が必要と思われることについてはこの表でなく、次の表に回答とともに記します。

6. インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果

例年、インターンシップに参加した本校学生に対してアンケートを実施している。質問によっては微調整しているものの、基本的なところは同じ内容を継続している。これによって学生の意識調査および参加の実体を把握し、次年度以降の実施の参考としている。

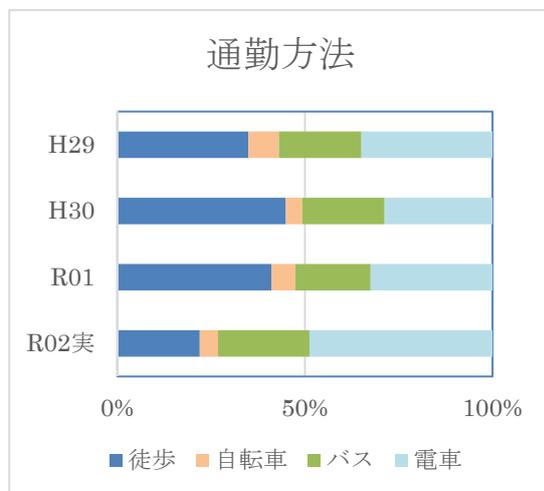
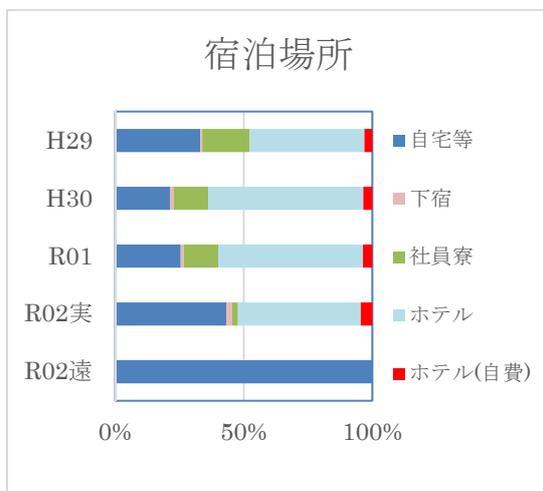
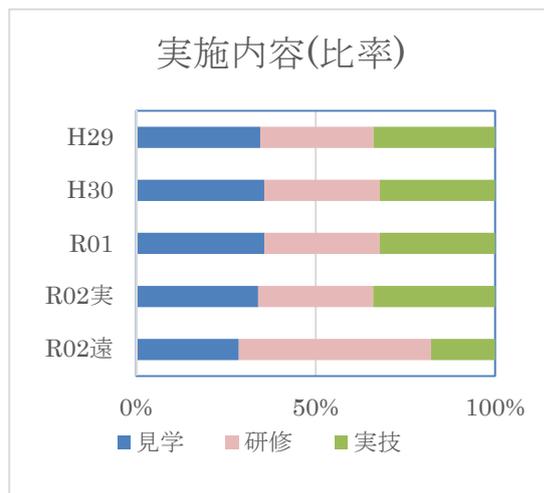
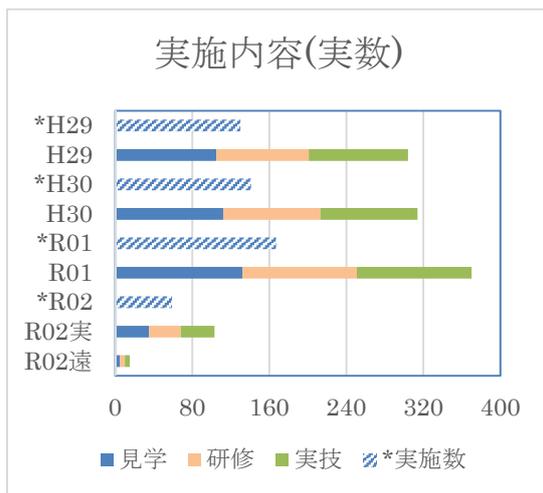
| |
|---|
| 令和元年度のインターンシップ学生用アンケート |
| (1) あなたのクラスは？[] |
| (2) あなたの性別は？ 男 女 （男女で受入れが違うケースがあるため聞きました） |
| (3) あなたの氏名は？[] |
| (4) 受入機関の名称は？[] |
| (5) 受入機関の事業所名(工場名)と住所は[] |
| (6) 実習開始日は？[月 日] |
| (7) 実習終了日は？[月 日] |

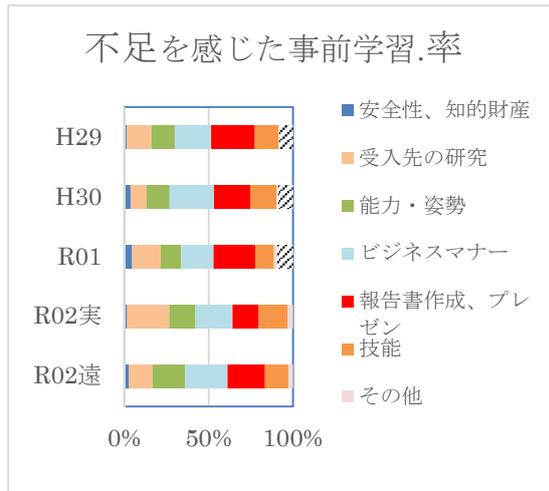
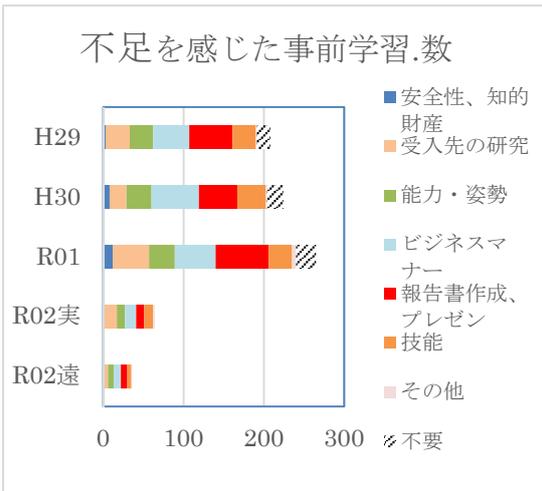
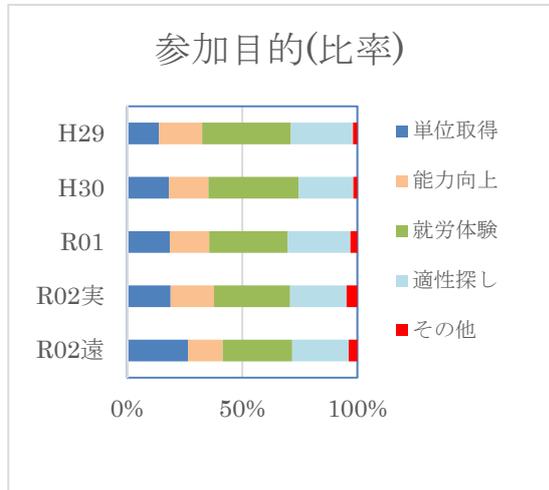
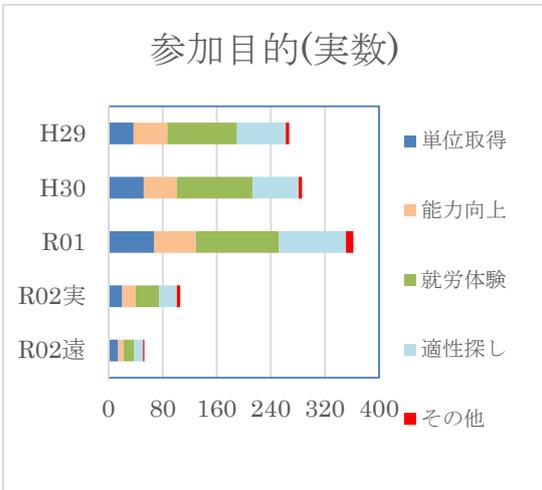
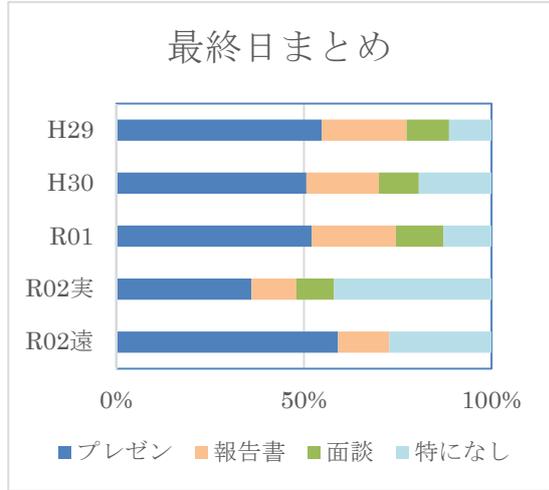
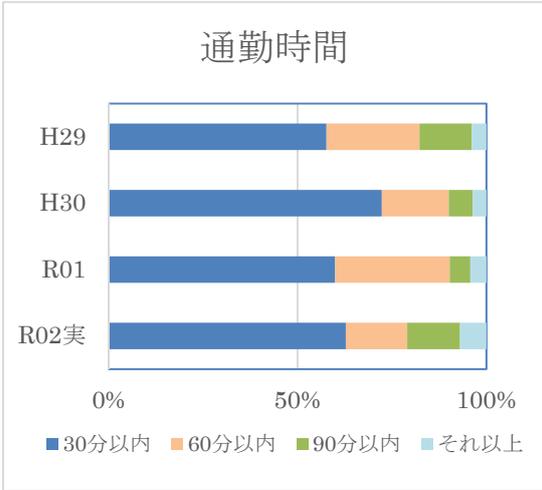
- (8) 実施日数は？[日]
- (9) 主な実施内容は？（複数回答可）
 ①見学，②研修，③実技，④その他[記入を]
 もしも②③ならば詳細は？（複数回答可）
 ①実験・シミュレーション，②講義・グループワーク，③検査，④組立・加工・製造，⑤測定・計測・分析・解析，⑥保守・点検，⑦設計・開発，
 ⑧その他[記入を]
- (10) 実際に実習を行った場所は？（複数回答可）
 ①工場，②実験室・研究室，③教育施設・会議室，④品質管理室，⑤検査室，
 ⑥加工室，⑦自宅，⑧その他[記入を]
- (11) 期間中の宿泊場所は？（一つ選択）
 ①自宅，②下宿，③社員寮，④ホテル，⑤その他
- (12) 通勤方法は？（複数回答可）
 ①徒歩，②自転車，③電車・バス
- (13) 片道の通勤時間は？（一つ選択）
 ①30 分以内，②1 時間以内，③90 分以内，④それ以上
- (14) 実習最終日の報告は？（複数回答可）
 ①プレゼン，②報告書，③面談，④特になし
- (15) 【実習の動機】 インターンシップに参加した目的は？（複数回答可）
 ①単位取得，②能力向上，③就労体験，④適性探し，⑤その他[記入を]
- (16) 【事前教育】 もっとやるべきだったと考える事前研修はどのようなものですか？
 （複数回答可）
 ①安全・知的財産，②受け入れ先の企業研究，③インターンシップで身に着けるべき能力・姿勢，⑤ビジネスマナー，⑥報告書の書き方・プレゼン能力，⑦技能，⑧その他[記入]，⑨不要
- (17) 【成果の自己評価】 自分の能力が向上した？（一つ選択）
 ①はい，②いいえ，③どちらともいえない
- (18) 【成果の自己評価】 就労体験となった？（一つ選択）
 ①はい，②いいえ，③どちらともいえない
- (19) 【成果の自己評価】 自らの適性がわかった？（一つ選択）
 ①はい，②いいえ，③どちらともいえない
- (20) 【成果の自己評価】 その他何かあれば入力
 []
- (21) 満足度はどうでしたか？（一つ選択）
 ①非常に有意義だった，②概ね有意義だった，③あまり意義がなかった，④まったく意義がなかった
- (22) 研修中の感想を入力（気づき、驚いたこと、印象的だったこと、新発見などを含め）
 []
- (23) 研修中に困ったことを入力
 []
- (24) 学校への意見、要望、現在の気持ちなどを自由に入力
 []
- (25) 受け入れ機関への意見、要望、現在の気持ちなど自由に入力
 []
- (26) 経験したインターンシップのお勧め度は？（一つ選択）
 0%，10%，20%，30%，40%，50%，60%，70%，80%，90%，100%

- (27) インターンシップ参加前と参加後の進路希望は？
 事前は就職希望 ① 事後も就職希望, ②後は未定, ③後は進学希望,
 事前は進学希望 ④ 事後は就職希望, ⑤後は未定, ⑥後も進学希望,
 事前は進路未定 ⑦ 事後は就職希望, ⑧後も未定, ⑨後は進学希望
 [進路変更となったきっかけ・理由は?]
- (28) インターンシップ先を選ぶ決め手となったのは? (一つ選択)
 ①業種, ②職種, ③県内, ④県外, ⑤ネームバリュー, ⑥インターンシップと就職
 の関係性, ⑦COC マッチング会, ⑧その他[記入を]
- (29) 記入日[]

以上の質問の中から、特徴的なものを以下にグラフ化する。今年度は現地で実施（実）と遠隔実施（遠）を分けてグラフに示した。

1つを選択するものの横軸は比率とした。複数回答のものは横軸を人数としたものと比率にしたものの両方を示した。





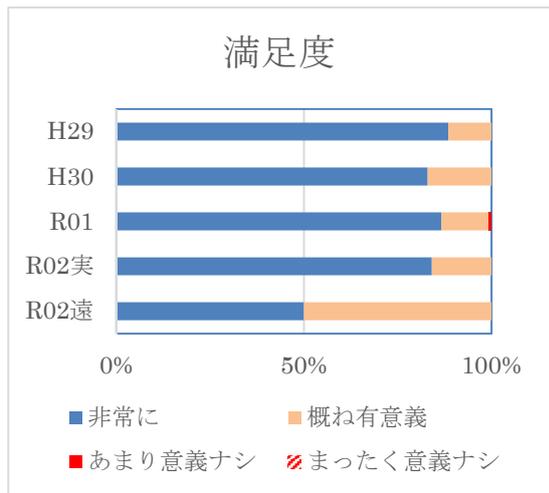
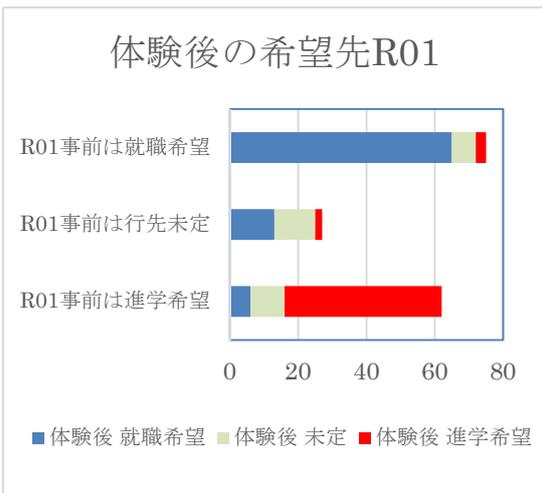
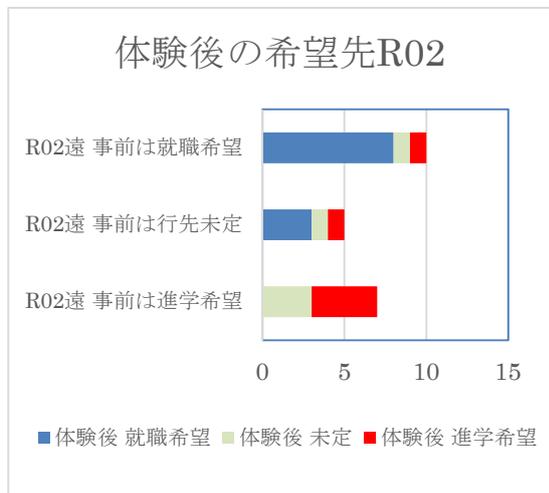
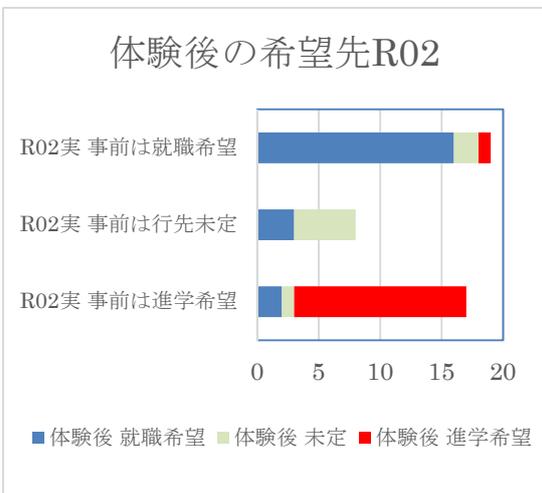
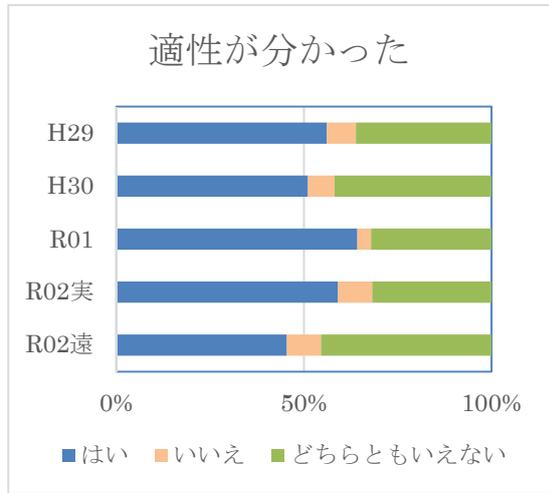
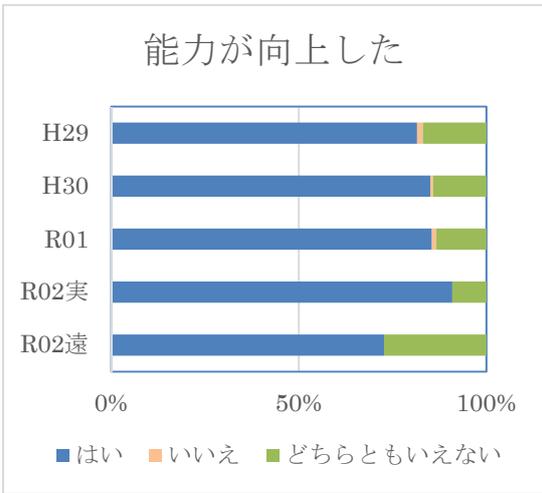


図4 学生からのインターンシップのアンケートのまとめ

(1) 実施内容概要（良いところ）

最後の項目である「満足度」は、例年通りほとんどが「非常に有意義」または「概ね有意義」という回答のみであり、今年度も学生は素晴らしい体験ができたと言える。受け入れ機関の方々や学内担当者のご尽力があったからである。インターンシップを支えて下さった皆様に深く感謝いたします。

(2) 実施内容概要（気になるところ）

ただし、気になるところがいくつか見られる。

まず、「不足を感じた事前学習」など、毎年のように同じアンケート結果を得ていることが今年も繰り返されている。このことは毎年の事前研修で学生に伝えているにも関わらずである。今後も更に強く学生に伝えることが必要である。

(3) コロナの影響

遠隔実施が行われたのは、コロナの影響が大きい。

学生の回答を見ると、遠隔実施の場合、学生に伝わりにくくなっている様子が見られることに注意が必要である。P.15の「能力が向上した」と「適性が分かった」とする回答では実実施と遠隔実施に差がみられる。また、P.16の「満足度」についても「概ね有意義」とする回答が実実施と遠隔実施の学生には差が見られる。このことは、この報告書のp.8の「企業側の手ごたえと」逆の結果になっている点も指摘しておきたい。

7. 学生からの意見・感想

参加学生からのアンケートに、インターンシップに対する要望や実施して気付いたこと、感想などを自由に書かせた。以下に、その主な回答をまとめる。

今年度の実施方法は現地で実施と遠隔実施とに分かれた。実施数が少なかったため、分類の欄を分けて、全ての意見をまとめた。

1. 研修中の感想を入力(驚いたこと、印象的だったこと、新発見などを含め)

| | 現地で実施 | 遠隔実施 (※遠隔に固有) |
|----------|---|---|
| 実施体制について | <ul style="list-style-type: none"> - 実習期間が二週間と他の所よりも長かったが、多くのことを学べたと思う - 行ってすぐにグループ分けをされて、すぐにアプリ制作に関する企画を立てることになった。それが終わったらアプリの設計書や企画書を書きチェックを受けてから制作に入り三日間一日中プログラムを書いていた。伸び伸び書かせてくれた質問もしやすかったので楽しくプログラムをかけた - さまざまな部署で高専 OB、OG が活躍していたこと。 - 授業であまり触れない内容でとても新鮮だった。丁寧に教えていただき、わかりやすかった。 | <ul style="list-style-type: none"> - 初めてオンラインでグループワークで話し合いをして緊張したし難しかった※ - オンラインであったが、誰もが自主的に発言できるような空気があった。※ - オンラインでの実施だったので不安があったが、わりと上手かった※ - Web インターンだったので実際の空気感がわからないと思っていたがテレワークをメインにしている企業だったので内容がとても掴めた。※ |

| | | |
|-------------|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> - プレゼン発表会では、工場長、各部の部長、人事部の総勢 15 名ほどの華やかな面々に対してのプレゼンだったため、とても緊張した。会社のこと以外に、就職活動についてや業界について、Web 面接のコツなどを教えて頂いたのが驚いた。 - 個人での実技で、近くには研修中の社員さんもいたので新入社員になった気分だった。 - 沼津の専門学校の人が 6 人ぐらいのグループができていて少しやりづらかった。 - 働くことはどんなことかわかった - 研修先の方達に、どのような理由で進路を選んできたかを聞き、色々な人がいて印象的でした。特に、能力が身についたら転職を繰り返している人の人生論を聞いたのが興味深かったです。 | <ul style="list-style-type: none"> - やはり現場に行ってもこそわかることもあるかもしれないと考えた。✖ - 大学生や専門学校生に混ざったことでとても良い刺激をもらった。 - 他の高専の人たちと交流し、切磋琢磨できたと思う - 他高専の人が優秀 - 参加した周りの人のレベルが高かった - (社員として) 高専生が活躍していたこと - 色々な部署の話聞いてよかった |
| 準備と必要な知識 | <ul style="list-style-type: none"> - 自分の学んでいる分野とは全く違う分野の事を学べたのでとても新鮮でした。 - 自分が予備学習が十分役に立ったこと。 - 自分の興味のある分野を知ることができた。 - 学校で学習した専門知識が現場で使われていることを実感した - 普段学校では学ぶことができないような専門的なことを学ぶことができてとても良い体験ができた。 - 学校で学んだ知識が役立って良かった。 | <ul style="list-style-type: none"> - 業界自体のこともよくわからない状態で参加したが、プラントエンジニアリングとは何か、具体的にどのような仕事があるのか知ることができた。学生時代の経験も大事だが、就職してからどれだけ技術を身につけられるかが大事であることを知った。自身の技術力のなさを痛感したとともに、技術力と同じくらいコミュニケーション能力が大切だと感じた |
| 雰囲気や福利厚生 | <ul style="list-style-type: none"> - どの現場も雰囲気がよくとても親切だった。 - 気軽に質問できて良かった - 楽しかった。とても良い勉強になった。 - 研究所が楽しかった - 普段入れない所に入ることができた - コミュニケーション能力が不足していること - 実習テーマが予想外な内容だったが、非常に楽しみつつ進めることができた - 社員食堂がおいしい、社長と懇談 | <ul style="list-style-type: none"> - 厳しいというよりもフラットな感じだった - 社員の方向士がフランクに話されているのを見て、雰囲気が良いと思った - 想像していたより優しくて質問がしやすかった |
| 業務を通して知ったこと | <ul style="list-style-type: none"> - 自動化されている部分が多いと思っていたが、個人の技量が問われる場面が多く、印象に残っている。 - 開発、品管、工場実習等余すことなく見学、体験させてもらえてうれしかった。研修中疑問に思ったことだけでなく、福利厚生などの話にもしっかりと答えてくれて驚いた。 - 自分が知らない分野における知識が深まった。 - 特殊な現場で働く人々がそれぞれ自分の仕事に誇りと責任を持って取り組んでいる姿に感銘した。 - M 科のような加工の現場に高専の電気科卒の方がいた事に驚いた。 - 施設の大きさに驚いた、ディープラーニングが実習できてよかった | <ul style="list-style-type: none"> - 火力等発電所の規模の大きさに驚きました。また、太陽光発電というものの出力の大きさにも驚きました。社員の方にもお話を伺ってやりがいをととても感じました。 - 世界最高性能の装置について話が聞いたことが印象的だった - プログラミングの能力は必要最低限あればいいこと、利益につながらないと判断された場合どんなに企画が進んでいても中止になる可能性があること - Web アプリの実装は思ったよりもかなり簡単に実装できたことに驚いた。 |

| | | |
|----------------|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> - 機械系の会社だったのでとても新鮮だった。工場でも E 科で学んだ事が使われていることに驚いた。 - 品質保証が自分のやりたいことだと気づいた - 大型の 3D プリンタが印象的であると同時に、予想以上の重労働だった。 - 自分の品質管理の仕事に対するイメージが変わった。 - アプリ開発を体験したが時間がカツカツでとても焦った。 - システム開発におけるコーディングの時間は意外と短いことが印象的だった。 | <ul style="list-style-type: none"> - (参加した電力系の会社が) 電力以外の事業を行っていることを知れた - C 言語を学校で教わっていたので、研修もスムーズにできると思っていました。しかし、ゲームを作るうえでのメモリ管理など多数学校ではあまり深く触れなかったことや C++特有のクラス概念などがありました。学校での成績が良くてもそれが社会で通用するかどうかは全くの別物だということに気づき、より一層勉強しプログラミング技能を上達させようと思いました。 |
| 協力 | <ul style="list-style-type: none"> - 製品ができるまでに計画をしたり検査や議論を繰り返し行なっていることを初めて知った - 沢山の人や物が関わり合って工場というものは動いているのだと感じた。 - チームに分かれ、グループワークを行ったときにチーム全員が積極的に発言をしていて、かなり活発な話し合いになったので、チームでの話し合いはモチベーションとチーム全員の積極性が不可欠であることに気づいた。気持ちが伝わるプレゼンのやり方を学んだ際に、今まで自分が行ってきたプレゼンの欠点が見出せた。 - 様々な部署の人が常に意見交換していることに驚きました。 - 仕事として自分一人で抱え込むよりも仲間と考えられる関係を作ることを感じました。 - エンジニアとして働く上での人間関係などがわかった | <ul style="list-style-type: none"> - 今まで SE やプログラマに対して物静かな仕事という印象だったが、顧客との面談などで必要とされる人間性や会話力の強さが必要だということ |
| 安全管理と、それに向けた姿勢 | <ul style="list-style-type: none"> - 企業の衛生面での努力が思っていたより厳しくされていたことが印象的だった。 - 製造を開始するまでの難しさを知りました。 - 完璧な品質管理で凄かった！品質管理部だけじゃなくて他の部でも、品質管理をしていて一体感があった。 - 仕事の難易度の高さと、責任の重さに驚いた。 - 製薬に対する徹底した安全教育に驚いた。 - 私が思っていた以上に安全への対策や意識が高かった。基本的に入社後に学び直す方が多かった。 - ただデータを作るだけでなくより深く細かいところまで編集してかなければならないことに驚きました。 - 震災から 10 年たった今でもその場に住めていない人がいて、なによりも全ての家や車が新しく、心に刺さるものがありました。 | <ul style="list-style-type: none"> - セキュリティ管理が自分の思っている以上に厳しく気を使う場面が多かった |

・世界最高性能の装置は、プライバシー情報保護のため元の情報から書き換えたものです。

2. 研修中に困ったことを入力

| | 現地で実施 (※コロナに固有) | 遠隔実施 (※遠隔に固有) |
|-----|--|---|
| 特にな | <ul style="list-style-type: none"> - 受け入れ先の方が皆さん親切で、分からないことを聞いたら教えて下さったので特別困ったことは無かった。 - 特記するようなことはありませんでした。 | <ul style="list-style-type: none"> - 特になし。 - 特になし - なし |

| | | |
|-------------------------|---|---|
| し | <ul style="list-style-type: none"> - 特になし、親切にいただいた。 - 特にありませんでした。 / - 特になし / - とくになし / - なし | |
| 生活 通 勤 ネ ット | <ul style="list-style-type: none"> - 新型コロナウイルス対策で実施変更点があったこと ※ - コロナ関係の影響でインターンの詳細日程決まらず、が研修の4日前ほどにきた ※ - コロナ渦の影響で実習予定が変更した事。 ※ - ホテルで寝れなかった - 朝6時におきるのがつらかった - 毎朝の慣れない身支度 - 靴擦れが大変だった。 - 初日だけスーツで次の日から私服だったので選ぶのが難しかった - 服装指定がなかったため出勤時の服装(特に初日) - 私服で良いと言われたこと。スーツじゃなくていいと言われてどのような格好で行けばいいか迷った。 - 私服と書いてあり整った服を持っていたが就業中は作業着を着るので、私服は通勤退勤時だけで半袖でもよかったということ - クールビズ中でジャケットを脱ぎ、上はシャツ(長袖の時は捲った)だったがオフィスが結構暑かった。 - スーツの下が肌着で上下どちらも作業着を着ることになり、企業の方にも気を使わせてしまった。電車の遅延で遅れそうになったこと。 - コロナでホテルの洗濯機、乾燥機が使えなかった。シャツを多めに持っていたため事なきを得た。クールビズでとあったが、2日目と3日目は私服でもよいと言われた。私服を持っていなかったもので、持っていけばよかった。 - 通勤時の雨風が想像以上に強く衣類や書類が濡れたこと。 - 通勤が時間がかかった。 - 体力のなさ - 研修先が実家から遠く、先輩の家に居候する形になってしまったこと - 施設が広く少し道に迷うときがあった - 筋肉痛 | <ul style="list-style-type: none"> - ネットに繋がらなくなったこと ※ - ネット回線が突然使えなくなったこと ※ - 自宅の通信環境が悪くなって話が聞けない場面があった ※ - オンラインだったから一日中 PC を見てて気持ち悪くなった ※ - 一日中パソコンを使った作業だったので眼精疲労と腰痛が酷かった ※ - オンラインのため音声聞き取りにくかったりした ※ - 自宅でのインターンシップは緊張感がなかった。 ※ - 動画視聴など、講義が辛かった - オンラインでの研修だったため、他高専の人と集団で話す機会があったがなかなか会話が弾まなかった ※ - 在宅でのリモートだったのでグループワークがやりにくかった ※ - オンラインのため相手との距離感が縮まりづらかったこと ※ - オンラインだったので他研修生とのコミュニケーションがとりづらかったことです。 ※ - リモートのため雑談などがしにくく、どうしても仕事上だけの付き合いみたいになってしまった。 ※ - オンラインだったため、アクセストラブルのようなものがあった。(研修先の方も初めてのオンラインインターンシップだったため、致し方ないことだと思いますが) ※ - リモートだったため、あまり慣れていない環境下で目上の人と話すことが難しかった ※ - 分からないことを多数の人がいる場で質問することの恥ずかしさ。恥ずかしくて質問できないと自分の作業が遅れる焦り。 ※ - 質疑応答の時間がとても多く質問を考えるのが大変だった ※ |
| マ ナ | <ul style="list-style-type: none"> - メールのやり取りや言葉遣いなどのマナーが難しかった。 - 積極的になれなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> - リモート環境におけるマナーや礼儀作法 - ビジネスマナー |

| | | |
|------------------|---|--|
| 一 や 姿 勢 | <ul style="list-style-type: none"> - 行った企業が開発した薬などをもっと調べればよかった。 - 自分の科が何をしているのかを誰でもわかるように具体的に説明する事が難しいと感じた。 - 知識がなさすぎてネットで調べないとわからなかったこと。 | |
| 技 術 | <ul style="list-style-type: none"> - 専門知識の理解度が足りていなかった。 - まだ学校で触れてもないような内容が出てきた事。 | <ul style="list-style-type: none"> - C++の技術が足りなかった。自分のポートフォリオ等も持っていた方がよかった。 |
| プ レ ゼ ン | <ul style="list-style-type: none"> - メモ帳が大きかったため、移動の時などに持ち歩く必要があり邪魔なときがあった - 説明が難しいことが何度かあり、理解に時間がかかった。 - プレゼンの資料作成 - 持ち帰りの作業があり、22:00 に家に帰ってから 3:00 まで作業をして 6:00 起きの 5 日間だったので疲れた - 最後のプレゼンでうまく話せなかった。 - PC の操作方法が分からなくて困ったが質問して解決した | <ul style="list-style-type: none"> - パワーポイントの使い方 - プレゼンの仕方 |

3. 学校への意見、要望、現在の気持ちなど自由に入力

| | 現地で実施 (※コロナに固有) | 遠隔実施 (※遠隔に固有) |
|----------------------------------|--|---|
| なし 、 単 純 な 感 謝 | <ul style="list-style-type: none"> - 特に要望はありません / - 特にないです。 / - 特になし。 / - 特にない / - 特になし / - 特になし特になし / - 特になし / - 特になし / - なし / - なし / - ない。 - 良い体験になった - コロナ禍でもインターンに行けてよかった ※ - インターンが開催できるかわからなかったけど参加できてよかった。 ※ | <ul style="list-style-type: none"> - 特にありません。 / - 特になし。 / - 特になし。 / - 特になし / - 特になし / - 特になし - 有意義だった - とても良い時間だった - とても有意義だった。 - 貴重な経験ができた - オンラインインターンは案外良かった ※ |
| 総 括 | <ul style="list-style-type: none"> - 今後の進路がより明確になった。 - 進学か就職か悩んでいた所で、インターンがいい判断材料になっています。 - 自分のしたい仕事について深く考えることができた。 - さらに、自分を磨きたいと感じた。 - 進学か就職かを見極めるいい経験となった。 - このような機会があるのは良いと思う - 全員に進めるべき機会だと思いました。 - インターンにはなるべく参加した方がよいと感じた。 | <ul style="list-style-type: none"> - 実際に企業に行ってみたかった。 ※ - 残りの学校生活をより精一杯充実したものにしたいという意識が芽生えた - もっとみんなに行くように言った方がいいと思う |
| 準 備 支 援 | <ul style="list-style-type: none"> - 学校の協力によって、会社とのやり取りや手続きなどを楽に安心して行えてよかったと思った。 - インターンシップのサポートをしていただきありがとうございました。 - インターンシップ参加までの道のりを手厚くサポートしていただき、ありがとうございました。 | <ul style="list-style-type: none"> - 先生方、学生課の職員方が、インターンシップに関する質問に丁寧に答えて下さりありがたかった。 - コロナウィルスの影響で全てが前例のない大変なものになったが、担当の先生方や教務係の方々のご助力で有意義なものに |

| | | |
|-----------|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> - 十分なサポートをしていただきました。 - お忙しい中書類作成や説明会などサポートしていただきありがとうございます。 - インターンシップという貴重な体験で、自分たちがインターンシップに集中できるようにサポートしてくださりありがとうございます。 - インターンシップのために様々な準備（マナーテスト、事前学習、流れ、Q&A など）があつて助かった。 - インターンシップ事前研修や勉強部屋があつてよかった。 - 勉強部屋がとても役に立ってよかったです。メールの部屋なども欲しかったです。 | <p>なった。✖</p> |
| <p>要望</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 欠席届関係の書類についてもっと明確に示してほしい、欠席届と欠課届をそれぞれ提出しなければならない理由がわからない - インターンの説明会でフォーマルな私服や化粧についても教えてほしいです。 - もし募集一斉開始後に新たに募集可能な企業が追加されたらメールなどで知らせたいです - moodle のインターンシップ募集企業の書式が統一されていたらもっと見やすいと思った | <ul style="list-style-type: none"> - 可能ならばすべてデジタル化 (Forms のような形に) してほしい - 科目担当のメールアドレスを記載してほしい |
| <p>他</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 対応、連絡を早急に行って欲しい - 履歴書のチェックが日によって指摘する場所が違い、矛盾が生まれて混乱しました。担当の先生の意見ではなく、マニュアルを作るべきだと思います。 - 実習期間中の授業で出された課題が多く、かつ期限内に提出しなければならない所が大変。 - 研修先からの情報をすぐに伝えてほしい - 学校へ応募が来ていない別の企業に参加を希望し、参加できるか確認するように要望したが、何も連絡が来なかったため、企業を選ぶのに時間がかかってしまったので、参加できるか確認したら教えてほしい - 1社だけでなく2社ぐらい行きたかった。製薬会社を比べてみてみたかった。 - 私服 OK に対する服装について説明があるとよかった - がんばりたい - 学校でのグループワークでの話し合いはチーム（学生）全員に積極性が感じられず、活発的な話し合いが全然出来ていなかったことがわかった。 - N 先生がエントリーシートの添削をして下さったのがよかった。報告書のフォーマットに行く前から提示して欲しかった（後になって情報が足りない、ということにならないか心配だった）。 | <ul style="list-style-type: none"> - コロナ渦だったので従来通りではなかったのは仕方ないのだがもう少し対応を早くして欲しかった✖ - 担任教師に企業からのアンケートや情報が来ているにも関わらず、なかなか生徒側に連絡が降りてこなく、企業側に迷惑をかけてしまったため、連絡は早めに行って欲しい - 書類で製品概要を示すだけでなく、顧客と面談して製品を作り上げるような授業も面白いと思う - 自分の行きたかったところが2件とも中止となって、自分の望むところがなく、コロナの関係もあるから今回はやめようかと考えていたが何度も催促が来た。それでいて後々になって強制しないと念押しするのは、何だかとても変な気分になった。 - 3年のC言語でクラス概念、メモリ管理について教えて欲しい。 - 元々行きたかったところが人数オーバーしており、学内で選抜をするわけではないということで、確実にインターンに参加するため今回の受け入れ先に行くことに決めたが、希望人数が見えなかったり賭けのような状態になってしまうのはよくないと思う。これからのためにも |

| | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> - 自分がグループで作業する際にどう立ち回れるかを知れ、反省するところもいくつもあった。それが知れたので有意義だった。 | <p>インターンに行くことはとても大事なことだと思うので、あきらめなければならぬ状況にはなっていないと思う。</p> |
|---|--|

4. 受入機関への意見、要望、現在の気持ちなど自由に入力

| | 現地で実施 (※コロナに固有) | 遠隔実施 (※遠隔に固有) |
|-----------|--|--|
| なし、単純な感謝 | <ul style="list-style-type: none"> - なし / - 特になし / - 特にありません。 - 行ってよかった。 / - とても有意義な時間でした。 / - とても良い体験だった。 / - 良い体験になった / - お世話になりました / - 非常に有意義でした。 / - ありがとうございました / - 貴重な体験をさせて頂いてありがたい / - とても有意義だった / - 一生心に残る体験をさせて頂いていただき、ありがとうございました。 / - 貴重な体験をさせて頂いていただき、ありがとうございます。 / - 受け入れて頂いて感謝の気持ちでいっぱいです。 / - 現状のプログラムで大方満足です。 / - とても勉強になりました。ありがとうございました。 / - とても勉強になりました。ありがとうございました。 - 五日間、インターンシップを受け入れてくださりありがとうございました。有意義な体験になりました。 - このような情勢下インターンシップを開催していただき誠にありがとうございました。 - コロナ禍の中で有意義な時間をもうけていただき感謝しています。 | <ul style="list-style-type: none"> - 特になし - 気軽に質問できる環境を与えて下さりありがたかった。また、丁寧な回答もとても助かった。楽しみな空気感もよかった。 - とても丁寧かつ優しく対応して頂き嬉しかった - リモートとはいえインターンシップを行って頂き感謝したい - コロナ渦でも受け入れて頂きありがとうございます。 - とても有意義な研修で素晴らしい夏季休暇を過ごすことができました。ありがとうございました - このようなご時世の中で慣れない環境でも円滑に進めてくれたことに感謝の気持ちしかない。 |
| 実際・ネットの特徴 | <ul style="list-style-type: none"> - いろいろな場所を案内して頂いて貴重な経験になりました。 - コロナで大変な時期に、対面形式でのインターンシップを行って貰えて非常に有難かった。 - コロナ禍で厳しい時期に受け入れてくれて本当に感謝している。多くの部にお世話になり、予定になかった見学も出来たのでよかった。 - この世間の状況に対しての対面インターンシップできたことに感謝しています。 | <ul style="list-style-type: none"> - リモート開催ということで心配していたものの、滞りなく進み、快適に有意義な研修を体験することができた。※ - 実際に現地で学べたかった。※ しかし、●●社のプロフェッショナル職の魅力は大きく感じる事が出来た。リモートで開催の場合、他の班の人とも話せる時間があると良かったと思います。※ - オンラインでお互いに不安なのにととても丁寧に対応していただいたので安心して勉強出来ました。※ - 実際の様子を拝見することが出来ず残念でしたが※、オンラインになり希望していた以外の部門の業務内容などを知ることが出来たととても良かったです。 - 実際に現場に行き行って体験したかった※ - 次は実際に企業へ行って体験したい※ - 対面でやってほしかった※ |
| 自己 | <ul style="list-style-type: none"> - 自分の開発の参考になりました。コロナ禍でも受け入れていただきありがとうございました。 | <ul style="list-style-type: none"> - いろいろな方と話ができて自分の進路についてのヒントを得ることができてとても良かった - 自己分析を徹底的に行いたい - 自己理解が深まった - 今回のインターンシップの個人で企画開発をさせる研修を通して大きく成長できたと思います。 |

| | | |
|--------|---|---|
| | | - とても有意義な研修で自分の適性を見つめ直す良い経験ができた |
| 技術知識姿勢 | <ul style="list-style-type: none"> - 学校では学ぶことができない貴重な体験をすることができとても良かった。 - 今までにない経験ができ、学校の先が見えた気がしてとてもよかったです。 - 学んだ事のない分野について知れたことがとても為になりました。 - 親切に分かりやすく指導いただけのため、とても感謝しています。 - 社員同士のコミュニケーションがよく行われていて、社長との距離が近く、社内の雰囲気がとても良かった。また、個人のデスクが決まっておらず、部署ごとの隔たりも無いため、自由な環境で仕事ができるという点が他の企業とは異なる点だなと思った。 - 皆さん笑顔で迎えてくださり本当にありがとうございました。 - コロナ下で世界中が大変な中受け入れてくださり、本当にありがたかった。たくさんのお話を体験、見学させていただきとても楽しく良い経験となった。 - 分かりやすく教えてもらえて良かった - あまり深い知識を持ってない自分にも丁寧に教えてくださって本当に感謝の気持ちしかないです。普段通り実習をしている中で面倒をみていただいた上に、貴重な体験が出来たのでとても感謝している。 - 余すことなく貴社を紹介してくださりありがとうございました。 - 優しい方達ばかりで緊張せずに体験出来ました。研修より前に、身に付けておいて欲しい知識を聞いておきたかったと思いました。 - 機械加工や講義など楽しいプログラムが多く、充実したインターンシップでした。 | <ul style="list-style-type: none"> - 講義内容が分かりやすく、知らない業界の話だったのでとても興味深く聞くことができた。社員の皆さんも質問に丁寧に答えてくださって、とてもよかったです。ありがとうございました。 - オンラインだったが色々な話を聞いてよかった※ |
| 他 | <ul style="list-style-type: none"> - 時間がもう少しあれば作業を中断しないでやり遂げられるものもあって少し残念に思った。 - もっと日付が欲しかった。また、実技を行いたかった。 - もう少し先輩高専生と話す時間が欲しかった - 自分が就職したい職種の会社に行くことができたのでとても有意義なものとなった。 - ソフトウェア開発と設計体験の両方が出来て良かった。 - 電氣的な知識をはじめ様々なことを身に着けられてよかった - 設計において幅広い業務を体験させて頂けてとても良かった。欲を言えばもう少し専門的な話も聞いてみたかった。 - 設計だけでなく会談したり作業場の見学もしたかったです。 | <ul style="list-style-type: none"> - 学校側との連絡の相違がないよう気をつけたいです。 - 今回参加の企業には元々就職するつもりではなかったのだが、インターンを通して第一希望として就活したいと思えるほどになった。 |

・●●社、今回参加の企業、N先生 は、プライバシー情報保護のため書き換えたもの。

以上の結果を見ると、現場で実施と遠隔実施を比べると、以下のように差異があるように感じられる。

新年度に現地で実施するのか遠隔実施にするのか迷った場合、この差異を意識して選択して欲しい。

| 項目 | 現地で実施 | 遠隔実施 |
|--|--|--|
| 1. 研修中の感想 (驚いたこと、印象的だったこと、新発見などを含め) | - 周りの「人」を見ることができたようである - 安全管理の厳しさを肌で感じられたようである. | - オンラインであることについて意識があった. - 会話はしやすいようである. |
| 2. 研修中に困ったこと | - 仕事に加えて、生活についても問題を感じることもある. | - リモート固有の問題点が上げられた. |
| 3. 学校への意見、要望、現在の気持ちなど自由に入力 | - 人との対応が様々だったためか、マナーの準備ができていたことの評価が見られる. | - 全体に、記述が少ない |
| 4. 受入機関への意見、要望、現在の気持ちなど自由に入力 | - 多様な現場を見たということが伝わってくる | - 自己分析や自己理解について記述が多い |

8. 3年生対象のインターンシップ説明会

受入機関・参加学生から提出されたアンケートを集計した後、次年度インターンシップに参加する現3年生を対象として、下記の要領でインターンシップ説明会を行った。インターンシップの公募は4月早々に始まるので、アンケート結果等も参考に、春休み中に実習先を検討するよう学生に指導した。

令和2年度3年生向けインターンシップ説明会
 1) 日時：令和2年12月 3日(木) 16:25～16:55
 2) 実施方法：Teams
 3) 内容：(発表はCOOP教育委員長から)
 16:23～ 今日のスケジュール・諸注意
 16:25～ インターンシップの概要説明について
 16:40～ インターンシップ企業説明会について
 16:53～ 課題について
 4) 配布物：Teams上に開示

上記日程のうち、COOP教育委員長からの説明の概要は以下の通りである：

(インターンシップとは何か、企業アンケート集計結果、企業からの指摘、学生アンケート集計結果、インターンシップ関連情報収集方法(Moodleの活用)、受入機関より学生に伝えたいこと、今後のスケジュール.)

9. インターンシップの総括

インターンシップは選択科目であるが、そこで貴重な体験ができることが学生にきちんと伝わるようになり、学生の半分以上が行くことが定着してきた。そして、学生の感想からも分かるように、良い体験をした学生が大半であることが伺える。なお、就職希望だった学生が、インターンシップ実施後に進学希望に変更したりするのも、体験して初めて知ることができる重大な成果である。今後もますます有意義なインターンシップであるようにしたい。

今年度はコロナ禍という初めての体験の下で、先手を打った指導が難しく、現場の混乱を招いてしまったことは関係各位に深くお詫びしたい。その一方で、そんな中でも工夫してくださった企業様を始めとする関係各位に深く感謝する。学生の安全のために中止するというご判断も含めて、インターンシップという事業は学生に対して「学校だけでは対応できないことを教育できる貴重な機会」であり、アンケートに示したように、学生に大きな影響をもたらした。

なお、インターンシップと就職はイコールではないということに注意したい。文部科学省は「インターンシップが就職・採用活動そのものとして行われることのないようにする取扱いは維持」としており、本校もその方針に従っている。

最後に、本校のインターンシップは、下記に示す教職員ほかの多大なる尽力により実施されてきました。ここに感謝の意を表します。

| | |
|--------------|-------|
| キャリア支援センター長 | 小林 美学 |
| 機械工学科 4年担任 | 前田 篤志 |
| 電気電子工学科 4年担任 | 嶋 直樹 |
| 電子制御工学科 4年担任 | 鄭 萬溶 |
| 制御情報工学科 4年担任 | 宮下 真信 |
| 物質工学科 4年担任 | 新井 貴司 |
| 専攻科長 | 芳野 恭士 |
| キャリア教育委員会委員長 | 西田 友久 |
| 3年生学級担任学年代表 | 芹澤 弘秀 |
| 学生係長 | 藤本 和也 |
| 学生係 | 佐藤 美紀 |
| COOP 教育委員長 | 望月 孔二 |

令和3年1月

沼津工業高等専門学校 COOP 教育委員会 委員長

望月 孔二

付録 1. インターンシップ企業説明会について

令和2年度の3年生に向けた企業によるインターンシップ説明の機会を令和2年12月に実施した。

この概要については、令和3年のインターンシップ報告書にて触れる。

付録 2. 令和2年度インターンシップ日程（2月以降については予定）

4月

4年新担任教員との新年度インターンシップ事前打合せ，担当引継ぎ
インターンシップ募集案内掲載開始（学内 Web）
学科毎のインターンシップガイダンス
行き先希望調査

5～6月

担任教員による企業への交渉
必要書類（履歴書含む）作成・企業への応募

7月

事前レポート作成
インターンシップ事前研修会（全体・クラス毎）

7～8月

インターンシップ実施（7月中旬～8月末が夏期休業）
教員による視察

9月～10月

受入機関からの評価
参加学生のインターンシップ報告書提出・報告会（学科毎）
参加学生に対するアンケート調査
受入機関への礼状送付・アンケート調査

12月

3年生対象インターンシップ説明会（概要・データ紹介・反省・注意等）
3年生対象インターンシップ企業説明会

2月

インターンシップ報告書作成・受入機関への通知
担任教員によるインターンシップの評価

3月

単位認定

付録 3. 学外実習生学生心得

学外実習（以下「実習」という）は企業等において実際の工業技術を体得するため、専門課程の一環として履修するものであり、実習に従事する学生はこの心得を守らなければならない。

1 学生は、この心得のほか必要な事項、細目について、実習開始前に学外実習指導教員の指示を受けること

2 学生は、実習先の監督者の指導を受けるとともに、次に掲げる事項を守り、実習の目的を十分に達成するよう心がけること。

A) 規律

ア 出退勤時間、休憩時間を守ることを、無断で欠勤、遅刻、早退等は絶対にしないこと。

イ 社内規律、作業内規等の規則に従うこと。

ウ 学生として良識ある行動をとり、礼節を守ること。

エ その他社内秩序を乱さないよう留意すること。

B) 社内機密保持

ア 無断で製品、図面等社内の写真撮影をしないこと。

イ 無断で指定以外の場所に立ち入らないこと。

ウ 許可なく、製品、研究、文献、ソフトウェア、図面、談話等を社外に漏らさないこと。

エ 教員へ提出する報告には、企業秘密事項を含めないこと。

C) 安全保持

ア 監督者の指示・説明に従い、独断で作業をしないこと。

イ 実習先の作業心得、安全心得をよく守り、細心の注意を払い、事故を起こさないよう心がけること。

ウ 万一、事故又は異常事態が生じた場合は、直ちに、監督者に報告するとともに、すみやかに指導教員に連絡すること。

D) 作業態度

ア 監督者の指示に従い、独自の行動はとらないこと。

イ 実習先の社員等に対しては、努めて謙虚な態度で接すること。

ウ 必要以外の設備等には手を触れたりしないこと。

エ 実習期間中は、毎日、作業の終了を監督者に報告すること。

E) 用具の使用

ア 無断で社内の用具を使用しないこと。また、使用後は必ず元の場所に返しておくこと。

イ 許可なく物品の搬入・搬出をしないこと。

3 学生は、実習期間中、常に指導教員と連絡を保つとともに、実習内容の変更があった場合は、速やかに指導教員に報告すること。

4 学生は、実習終了後、実習報告書を実習先に提出するとともに、すみやかに経過を指導教員に報告すること。またその際、企業秘密事項が含まれていないかを確認すること。

学生生活の手引き（平成 31 年度 p.50）より抜粋

改定の記録

令和3年1月4日初版前の確認